

(28. 11. 16)

「第40回鹿児島合同写真展」に寄せて

鹿児島県歴史資料センター黎明館
館長 灰床 義博

黎明館にて開催いただきました「第40回鹿児島合同写真展」は、大盛況のうちに終了されました。

鹿児島県写真協会の村上会長様を始め、会員の皆様や、サポートされた御家族を含む多くの関係の方々の今日までの御努力に敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。また、韓国・全羅北道写真作家協会の皆様とも、交流が図られたことを心からお喜び申し上げます。

私も、素晴らしい作品の数々を拝見させていただき、新しい気づきや感動を頂戴しました。なお、全羅北道写真作家協会の皆様の作品の中にも、私自身が10年前に、当時の鹿児島県観光交流局次長として出張した際に訪れた名所・旧跡、施設などもあり、懐かしさが蘇ってまいりました。

昭和52年からの40年間で、「様々な写真団体が会派を超えて一同に展示する写真展」としての理念の下、鹿児島市内の8団体・約60名から、鹿児島県内の19団体・約350名へと、エリア・会員数ともに拡大・増加していることは、素晴らしいことだと思います。

私の好きな言葉の一つに「人間万事塞翁が馬」がありますが、今回の出展作品も、全てが、その言葉に通じるものではと感じました。何気ない日常の中での素敵な笑顔、家族、仕事、想い、喜び、出会い、悩みなどや、スポーツ、動物たちとの触れ合い、歴史的な伝統行事、厳しい表情も時には見せる豊かな自然、季節ごとの色彩の移り変わりなど、人生の様々な局面で向き合ういろいろな素材・客体を通じ、それらの内面とともに、「優しいまなざしと愛」というテーマに共感する作家自身の有り様(ありよう)が伝わってまいりました。

御覧になっている皆様も、共感、場合によっては、葛藤や戸惑いなども覚えながら、それぞれの作品の前で自問していらっしゃるようなお姿が印象的でした。

写真は、本当に素敵ですね。

結びに、鹿児島県写真協会の今後ますますの御発展と、全ての関係の皆様の御健勝・御活躍を心から御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。